



年頭にあたりご挨拶

(一社) 岩手県測量設計業協会
会長 吉田久夫

令和4年という新しい年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、東京2020オリンピック、パラリンピックがコロナ禍の中無観客で開催され、日本選手団の目覚ましい活躍もあり無事に終了しました。本年は北京2022冬季オリンピック、パラリンピックや2022FIFAワールドカップの開催が予定されていますが、世界的な新型コロナウイルス感染症再拡大の影響が懸念されます。我国では新型コロナワクチンのブースター接種も進められ、コロナ感染第6波への対策を講じているところです。

さて、東日本大震災津波からは10年余りが経過し、昨年12月には三陸沿岸道路が全線開通し、復興道路、復興支援道路が全て開通しました。津波被災地に二重、三重の被害をもたらした平成28年台風10号及び令和元年東日本台風災害からの復興については、小本川の災害復旧助成事業や河川激甚災害対策特別緊急事業、それに伴う一般国道455号の嵩上工事が令和4年度完成を目指し進められております。また、土砂災害対策として砂防激甚災害対策緊急事業による砂防堰堤の整備が進められている状況です。

昨年スタートした『防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策』は、「激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策」「予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策の加速」「国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進」について重点的・集中的に対策を講ずるものです。

当協会としましては、発注者の良きパートナーとなれるよう、経営基盤の強化、安定的な経営とワーク・ライフ・バランスの実現に取組み、従業員の継続雇用を図り、担い手の確保・育成に全力で努めてまいります。

また、「i-Construction、建設ICT」への積極的な取り組み、品質確保、さらなる技術力向上に努め、受注者の責務を全うすべく尽力し、『地域の担い手・守り手』として、地域住民の安全・安心な暮らしの確保に向けて組織を挙げて取り組む所存です。

『防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策』が示すインフラメンテナンスに係る業務は益々重要であり、若い技術者達が「誇りを持てる仕事」として積極的にチャレンジする業界にするためにも、関係の皆様には今後とも一層のご指導ご支援をお願い申し上げます。新年の挨拶といたします。